

令和6年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(家庭科) 教科主任名 小林真紀子

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月		次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策
知識・技能	1年	○日常生活の中で「栄養を考えた献立を立てる」技能を身に付けることができた。 ▲知識として身に付いていても、技能が身に付いたか自己評価させたり、丁寧に評価したりする必要がある。	実際に食品を使った「調理実習」で身近なことから具体的な学習を進めて、その中で評価していく。 定期テストへの取り組み方法やポイントを伝える。	1年		
	2年	○衣服について学び衣服の手入れについての知識・技能を得ることができた。 ▲授業内で習得した技能の評価をより丁寧に行う必要がある。	・2学期にまつり縫いの技能テスト、スナップ付けの習得を行う。 ・定期テスト前のポイントを確認をして、評価に響くようにする。	2年		
	3年	○テストの得点に知識の習得を見ることができた。 ▲授業中のノートやレポートなどで技能の評価をしたが、意図するレベルまでもっていくことができていなかった。	・課題に対しての、表現方法を詳しく説明する。数多くの実践をして評価の水準を上げる。	3年		
思考・判断・表現	1年	○栄養素を摂ることの必要性を理解し、そのためにどのような生活をすべきかを考えることができた。 ▲考えることはできても実践できることが課題である。	身近なことから家庭での実践や具体的な映像など視覚に訴える教材の準備が必要であるため、用意をする。	1年		
	2年	○昨年度に引き続き授業内で重要ポイントを徹底した結果、定期テストに反映することができた。 ▲2学期は各自で考えた装飾の実践をするため、計画、準備をする必要がある。	・夏休みに課題として出した「パソコンケースの装飾」を基に製作したものを評価とする。	2年		
	3年	▲授業で学習した質問に対して、予想し、発展的に考えられる内容が判断基準に達しなかった。今後は詳しい説明と教材や発問の工夫が必要であると考えられる。	・2学期に「おもちゃの製作」を通して、ポイントを伝え思考、表現の評価に加える。	3年		
主体的に学習に取り組む態度	1年	○栄養の行方など視覚教材などの活用で、興味をもって主体的な取り組みがみられた。2学期は調理実習で意欲的に取り組める時間を作る。 ▲授業ごとに書く「わかったこと」への取り組みが課題である	・「書くこと」の書き方、内容、取り組み方を説明する。 例を挙げて「何」を「どのように」理解したか書けるような指導をしていく。	1年		
	2年	○学習者用端末を使って主体的に取り組む授業によって、意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ▲主体的に取り組む態度・姿勢が明確化されていなかった。	・製作を通して、毎回の「チェックシート」の提出、意欲的に取り組む姿勢を評価していく。	2年		
	3年	▲授業の提出物は高かったが、内容が判断基準に達しなかった。課題への取り組み方、発問の内容など工夫が必要であると考えられる。	・製作を通して、毎回の「チェックシート」の提出、意欲的に取り組む姿勢を評価していく。	3年		